

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

み な み か ぜ



# 南 風

第 2 号

令和 4 年 4 月 28 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

## 引き渡し訓練始めます

校長 吉原 誠 士

さいたま市に勤める公務員は、天災等の非常事態発生時には直ちに職場（または持ち場）に駆けつける義務を負っています。市外に住む私は地元町会の副会長を頼まれたことがあります。これを引き受けることはできません。<sup>おおよげ</sup>公を優先して奔走しなければならない場合があるからです。最近だと昨年 10 月 7 日深夜の地震の時がそうでした。市内いずれかの箇所で震度 5 弱以上が観測された場合には、避難所開設準備に駆け付けなければなりません。この時は中央区が震度 4 だったことと、周辺状況をモニターして管理職が集まり、取り敢えず教職員は自宅待機としました。私は再度の揺れに備えてそのまま校長室に泊まりましたが、深夜の学校・・・あまり眠れませんでした。

昨年度の仙台方面への修学旅行には震災学習を含めました。生々しく被災状況が保存される「大川小学校」跡地を訪れたクラスもあります。現地立つと「日頃の活動と同じようにここに非難させていれば多くの命が助かっていたらろう」と言われる裏山が敷地の背後に佇んでいます。<sup>たたず</sup>実際に登ってみると、さらに複雑な思いが込み上げてきます。当時の避難誘導指示を巡っては裁判にもなっていますから、ここでも無責任な発言はできません。しかし、訪問した生徒たちの表情には一切の笑顔はなく、余計な言葉を発する者もいませんでした。おそらく、「あの日、同じ場所で、全く同様の状況に置かれた人でなければ、そこで下された判断について語ることはできない」ということを理解していたのでしょう。

引率者の一人として、私も改めて「運命を預かることの責任の重さ」について考えました。これまでのマニュアルに記載された、「同じ方向に帰る生徒集団を教員が引率して帰路につかせる → ある地点で解散して各人を自宅に向かわせる → その場で一定時間待ち、戻って来る者がいなければ自宅に着いたと判断する」という方法は、“発達段階を考慮した”とは言っても安全を保障できるとは考えられません。そこで、校区の小学校 3 校の校長先生方と会議をもち、4 校一緒に「引き渡し訓練」を行うことにしました。地震を含めた天災、そしてそれ以外の様々な状況が想定される最近の情勢からも、過去の事故から学び、児童・生徒を保護者に確実にお渡しすることを徹底する決心です。

小学校ではこれは毎年の恒例行事でしょう。引き取り手が来校するまで児童を留め置くのは当たり前のことになっているはずですが。中学校でも今年度より体制を改めます・・・実は昨年夏、雷雨が激しさを増す中、本校でも下校の足止めをしたことがありました。安心メールをお送りして可能な限りお迎えに来ていただきましたが、その時の反省も課題として残ります。友人やご近所の子どもを「ついでに連れて帰る」という有難い申し出をお受けするべきかどうか、校内に待機する生徒の効率の良い呼び出しとチェックをどう行するか、実際に危機が訪れた場合に怯える子どもたちをどのように管理するか、などです。皆様からのご意見をお寄せいただきながら、ご協力とご理解をお願いいたします。

→ 一部、「引き渡し訓練」のお知らせが配付されなかったことをお詫び申し上げます。



今年度は薔薇の開花が昨年よりも多少遅れているようです。

校舎南側の見事な姿をご覧いただけるように、西門から校庭にかけての開放を予定しています。ゴールデンウィーク中に気温が上がれば、新たな展開も・・・特に5月3～5日の陽気次第かなとも思います。地域の方々への連絡、どうしましょうかね。ホームページも活用はするつもりですが・・・

**校庭南側** 日当たりも良好なので、一部の品種は開花、数も揃い始めています。





校地北側 寒いせいもあり、蕾が硬いですね。もう少し待てそうです。



校地西側（中央通り沿い） 蕾の色づきから今後に期待してまいります。



ゴールデンウィーク中の部活動について、以下のガイドラインを設定しました。

- ◎ 1回の3連休の内、活動は2日まで。
- ◎ 練習試合は自校を含めて2校までで行う。
- ◎ 大会・練習試合等を除いて、活動は原則3時間。